



温故知新



安全スローガン

まず確認 作業手順と危険予知 ルール守って無災害

今年も無事に1年間無事故無災害で安全大会を迎えることができました。これもひとえに皆様方のご尽力の賜物と深く感謝いたします。

最近の災害報告では、経験年数が5年未満の方と20年以上の方に多く見られ、各現場で様々な災害が発生しています。少し慣れてきた頃に油断したり、ベテランの方の近道行動などちょっと気を付けていれば避けられていた災害が多数ありました。一人一人が安全に気を付けて作業に取り組みましょう。

来年も無事故無災害で安全大会を迎えられるよう引き続きご協力をお願いいたします。



+
安全第一



指差呼称
足元よいか？足元よし！
野田工業(株)

【今号の主な内容】

- P① 安全スローガン
- P② 職場における熱中症対策
- P③ 開口部に気を付けましょう
- P④ 「繰り返し災害」の絶滅を。



発行

野田工業 株式会社
東京都中央区銀座6-6-19
TEL : 03-3572-1866
FAX : 03-3575-0420

「繰り返し災害」はなぜ起こる？

同じような場所、作業、手順で、また同じような事故が起きる。そんな「繰り返し災害」、みなさんも聞き覚えがあるのではないのでしょうか。

労働災害の原因は似通っていることがほとんどです。ではなぜ「繰り返し災害」が起こってしまうのか考えましょう。

繰り返し災害のパターン

1. 慣れとマンネリ



慣れている
作業だから
いつも通り
で大丈夫

災害事例	高所作業車で身を乗り出したまま上昇していたところ、手すりと梁下フランジの間に頭部を挟まれ被災
対策	上下周囲の確認を行い、挟まれの危険がないことを確認して作業を行う

2. 油断による判断ミス



簡単な作業
だし保護具
はいらない
かな...

災害事例	スケール巻き戻しの際、切創防止手袋を着用しておらず指の付け根を切創
対策	簡単な作業であっても保護具の着用を怠らない

3. 集団心理による安全軽視



みんなやっ
てるし、きっ
と大丈夫！

災害事例	昇降設備を使わずに、足場の外側を伝い降りたところ、足を踏み外して墜落
対策	現場KYで近道行為のリスクを周知し、昇降設備を必ず使用させる

4. プレッシャーと焦り



遅れたら怒
られる...

災害事例	天井内の作業をする際に、届かなかったため立ち馬の手すりに乗って作業を行い転倒
対策	高さが足りないことを相談し、作業に応じた足場を用意してから作業を行う

5. 精神疲労と注意散漫



電話での話
に夢中

災害事例	電話をしながら階段を下りていたところ、段差の高さの違いに気が付かず踏み外して転倒
対策	ながら行動をしながら階段を下りない

「慣れ」「焦り」「油断」の心の隙を防いで「繰り返し災害」の絶滅を！！

労災
発生



開口部に気を付けましょう



発生日 2026年5月28日
作業 ごみ搬出作業時
被災者 36歳 経験年数18年
被災状況 左下肢打撲皮下出血 左下肢挫創
職種 多能工

[災害発生状況]

被災者はごみ搬出作業中に狭い通路を両手で荷物を持ち移動中、通路上の衛生排水管用の床スリーブ250φ(図1)に左足を乗せ、養生蓋を踏み抜き太もも付近まで落ちた。複数人で救出、病院へ行き、左下肢打撲皮下血種、左下肢挫創と診断された。

<発生要因>

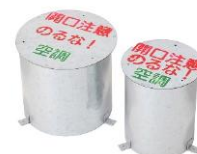
- 被災者は狭い通路を両手に荷物を持ち移動しており、足元が確認しにくい状況であった。
- 衛生排水管用スリーブの蓋を固定していたビスが抜けており、養生蓋が外れやすい状況になっていた。
- 被災者はスリーブを踏んではいけないという意識が欠如していた。
- 通路導線(図2)上の資材整理が不十分で、スリーブの上を通らなくてはならない状況になっていた。



図1 床スリーブ250φ



図2 通路導線(上部右側が床スリーブ)



【対策】

- 搬入動線は資材を整理して、台車の通行や両手でものを持って通行できる幅を確保する。
- 職長は搬入動線近傍にスリーブの有無を、KY時にリスクとして洗い出す。
(KY時にはスリーブ蓋には足を載せないように、周知徹底する。)
- 台車等の動線にある150φ以上の床スリーブには縞鋼板で塞ぎ、4か所アンカーで固定する。

床スリーブは踏み抜くだけでなく、つまづいて転倒することによるケガの恐れもあります。

また最近では施工中のダクトも開口部として扱い、作業中でない場合に養生されている現場も増えてきています。

現場は生き物です。毎日状況が変わり、工事における危険な箇所が増えることがあります。場内(特に搬入搬出作業時)は引き続き頭上、足元、手元をしっかりと指さし確認、KY実施をして仲間に周知をすることで事故を未然に防ぎましょう！

危険！！





職場における熱中症防止対策



1 熱中症リスクとなり得る暑熱に関する有害性を特定

- 高温・多湿な作業環境
- 連続作業
- 通気性や浸透性の低い衣服・保護具
- 身体作業負荷の大きい作業

2 作業管理

- 作業時間の短縮等
作業の休止時間や休憩時間を確保。
- 暑熱順化
計画的に暑熱順化を設ける。
- プレクーリング
作業開始前にあらかじめ深部体温を下げ、作業中の体温上昇を制御。
- 水分及び塩分の摂取
水分及び塩分の作業前後の摂取と作業中の定期的な摂取。
- 服装による身体冷却
透湿性・通気性の良い服や身体を冷却する機能を持つ服の着用。
- 作業中の巡視
高温多湿作業所での作業中は巡視を頻繁に行い、健康状態を確認。
- 作業従事者の健康状態及び暑熱順化の状態等の確認
作業開始前に当日の体調に普段と異なる変化がないか、睡眠不足がないかなど、声かけ。



3 過去の災害事例に学ぼう！

- 発生日時 2024年7月某日 9時半頃
- 被災者 18歳/電工
- 災害程度 熱中症(不休)
- 災害発生状況
被災者は単独で、不要ケーブルのばらし作業を行っていたところ、大量の発汗症状と倦怠感を覚えた。
病院で受診の結果、熱中症と診断された。(WBGT値 29.8度 嚴重警戒)

〈みんなで考えてみましょう！〉

- 何が原因だったのでしょうか？
→当時の気温が30度、WBGT値が29.8度の嚴重警戒の熱中症リスクの高い環境下だった。
→被災者は経験3か月で夏季での作業経験はなかった。
- どのような対策をすればよかったのでしょうか？
→職長はWBGT値による休憩回数を伝達し、その際に水分塩分補給を行うことの指導を徹底する。
→休憩の際に体調不良者がいないかを必ず確認する。
→夏季現場の経験不足者には熱中症についての教育を行い、適正配置を行う。



これからも暑い日は続き、気温も高くなります。
熱中症とはどのような症状か、どのような対策が必要かを
再確認して共有し、仲間の熱中症を防ぎましょう。

